

## 谷 昌也：日本藻類学会第21回大会宮島エクスカージョン参加記

1997年3月27日から東広島市の広島大学理学部で開催された日本藻類学会第21回大会に先立ち、前日の26日にエクスカージョン「南西海区水産研究所見学および宮島周辺島めぐり」が行われました。参加者は案内役の半田信司さん（広島県環境保健協会）、内田卓志さん（南西海区水産研究所）を含め、垣田浩孝さん（四国工業技術研究所）、坪田博美さん（広島大学大学院）、山本錡子先生（明治大学）、吉田忠生先生、谷昌也（北海道大学）の7人のこぢんまりとした会でしたが、少人数で楽しいツアーになりました（図1）。



図1. 船上にて（厳島神社正面の海上）

午前8時半、南西海区水産研究所で待つ内田さんのをぞく6人は、研究所に最寄りのJR大野浦駅に集合しました。雨が降るといふ予報でしたが、薄日の差す良い天気となりました。まず、タクシーに分乗して南西水研に向かいました。研究所では研究テーマの紹介がされ、その後、所内の充実した実験施設や屋外の実験水槽などを見学しました（図2）。そのあと、船着き場より広島大学付属宮島自然植物実験所の向井さんの操縦するボートで宮島へと向かいました。10分ほど走ると厳島神社の鳥居が見えてきました。船から見る神社は美しく、海からの訪問を前提にして作られているのがわかります。船はどんどん近づいていき、とうとう鳥居の下をくぐり抜けてしまいました。以前干潮時にそこまで歩いて行ったことがあるのですが、海上から見る鳥居は格別でした。厳島神社の右手奥より上陸した我々は歩いて宮島観光に向かいました。しばらく歩くと鹿の御出迎えがあり、町の方へと進みました。平日と言えども三月末。かなりの数の観光客が来ていま



図2. 南西海区水産研究所の野外実験水槽にて

す。少し奥の方にはいると観光客の数も減り、町も少々古い佇まいになりました。この一画にあるお店で昼食となりました。ここは、宮島でも老舗の一つで、宮島で捕れる地物のあなごを使ったあなご飯を美味しくいただきました。案内をして下さった半田さんは宮島のご出身で、このお店もそうですが、宮島の穴場情報や、歴史や自然についても詳しく説明して下さいました。

昼食のあとは山道散歩です。弥山の登山口から安芸の名将毛利元就の厳島合戦の要所となった要害山まで歩きました。宮島は私の住む北海道の寒々しい亜寒帯の山林と違い、常緑の広葉樹が覆い、花々がすでに咲いていました。今年はずっとより桜は遅く、花はまだ咲いていませんでしたが、シキミやアセビなどの白い花が満開でした。ここでは1月から順々に色々な花が咲き続けているそうです。

散歩のあとは紅葉饅頭の店でひと休みのあとに厳島



図3. 厳島神社の干潟で海藻を観察

神社を見学しました。海は干潮の時間になっていて、先ほど船でくぐり抜けた鳥居のところまで引いていました。潮が引いたあとにはアオサなど数種類の海藻が取り残されていました。最近、厳島神社では干潮になると大量に押し寄せたアオサが打ち上げられ問題になっていますが、氏子の方々が毎日清掃しているということです。近年宮島周辺ではアマモ場が減少する一方で、アオサの生育が著しくなっているようです。

また、ヒジキやワカメは最近になって瀬戸内海でよく見かけるようになったのですが、地元の宮島では採って食べる習慣がないそうです。普段の食卓にはヒジキやワカメはでてくるそうですが、生きているワカ

メを見慣れていない人たちにとっては、磯に生育しているワカメがわからないのでしょうか。採っていく人たちはもっぱら外部の人達だそうです。

最後に小雨の降る中、宮島の周囲をぐるりと時計回りに一周して、各入り江に見えるお社や、毛利軍が上陸した包ヶ浦、周辺の島々、コンビナート群、午前中に訪問した水産研究所などを海から眺めたあと、対岸の宮島口で解散となりました。少し期待していた海藻採集は次第に強く降りだした雨で出来なかったものの、宮島の自然と文化にふれた楽しい一日になりました。

(北海道大学大学院理学研究科)